

氏名 富田 大貴 法科大学院等の在籍年次 3L

---

\*このレポートは主としてこれからインターンシップに行くことを考えている人達に情報提供を行うことを目的とするものです。以下の項目について適宜行数を増やしながらかき込んでいって下さい。文字数及び頁数に制限はありません。

\*このレポートは、記名で法学研究科のウェブサイトに掲載されます。もし氏名掲載を希望しない場合には、その旨をお知らせ下さい。

\*重要情報についてはできる限り具体的に記載して下さい。また、後輩の方達に向けた率直なアドバイスをお願いいたします。

## 1 受入事務所と滞在期間

### (1) 受入事務所

JEFF LEONG, POON & WONG (以下、「JLPW」)

所在地：B-11-8, Level 11, Megan Avenue II, Jalan Yap Kwan Seng, 50450 Kuala Lumpur, Malaysia.

ホームページ：<https://jlpw.com.my/>

### (2) 滞在期間

2025年8月19日(木)～9月20日(金)

※インターンの期間は、8月20日(木)～9月19日(金)の平日18日間(9月前半に祝日が4日ありました)

## 2 事務所の業務・構成・勤務条件及びインターンシップの内容等

### (1) 事務所の取扱業務・構成 ※初日に人事の方から説明を受けます

JLPWは、クロスボーダー案件を含む幅広い企業法務を扱う事務所で、コーポレート、コーポレートバンキング、不動産取引・登記(Conveyancing / Property)、紛争解決/訴訟(Dispute Resolution / Litigation)の4部門に分かれています。渡航の約2週間前に、メールでコーポレートと紛争解決/訴訟のいずれかの部門を選択するよう案内を受け、私はコーポレートを選びました。

コーポレート部門は4つのチームに分かれており、業務は基本的にチーム単位で進められ

ています。各チームは、パートナー1名、アソシエイト2~4名、ピューピル（日本における司法修習生に相当）1~2名、そして複数のインターン生で構成されています。コーポレートといっても、同部門の業務の大半は企業のIPOやM&Aにおけるリーガル・デューデリジェンスであり、専門性が非常に高いです。

## (2) 勤務条件・設備

- ・勤務時間：平日9:00~18:00（昼休憩約1時間）<sup>1</sup>
- ・服装：ビジネスカジュアル（カッターシャツ、スラックス、革靴）。ネクタイ、ジャケットは不要（念のため渡航前に確認するとよいかもしれません）。  
金曜日はカジュアルな服装（Tシャツ、ジーンズ、スニーカーなど）でもよい（半ズボン、ジャージは避けましょう）。 ※写真参照（金曜日に撮影したものです）
- ・設備：事務所内のパントリーには、自由に使えるウォーターサーバーがあります。私は、空のペットボトルに水を入れてデスクに置いていました（水筒を持参すると良いと思います）。

## (3) インターンシップの内容

インターンシップ初日に、チームリーダーであるパートナーの先生からマレーシアの株式資本市場の概要、IPOの流れ、そしてJLPWコーポレート部門の業務内容についてレクチャーを受けました。このレクチャーのおかげで、業務全体の大まかなイメージを掴むことができました。なお、他のパートナーの先生がインターン生に対して同様のレクチャーを行っているかは不明です<sup>2</sup>。

JLPWにおけるインターン生の役割は、一言でいえば、同じチームのアソシエイトやピューピルの業務を補助することです。アソシエイトやピューピルが、パートナーから割り当てられた業務の一部をインターン生に割り当てます。私が配属されたチームには、私のほかに中国・西安市にある西北政法大学から来たインターン生2名が所属しており、彼女らと協働してタスクに取り組むこともありました。

私がインターン中に取り組んだタスクは次の通りです。

- 株式譲渡契約書のレビュー補助
- Due Diligence Project Memorandumの作成補助

---

<sup>1</sup> 早く出勤することや遅く退勤することは妨げられません。抱えているタスクの量に応じて昼休憩を長めにとったりもしていました。時間管理は個人に委ねられています。

<sup>2</sup> インターン生の処遇・取扱いは配属されるチームによって少し異なるかもしれません。

- 取締役会・株主総会決議の議事録の転記・整理
  - 依頼者との打合せに必要な書類の準備
  - クライアント・他のアドバイザーとの打合せ (kick-off meeting) への同席
  - 記録 (Prospectus, Information Memorandumなど) の読み込み
- タスクの内容はインターン期間中に配属チームが行っているプロジェクトによって異なると思います。

### 3 宿舎及びその他の生活環境について

#### (1) 宿泊先

施設名：Ibis Kuala Lumpur City Centre

所在地：32 Jalan Yap Kwan Seng 50450 Kuala Lumpur Malaysia (JLPWまで徒歩約5分、LRT Kelana Jaya線 KLCC駅から徒歩約7分、Ampang Park駅から徒歩約10分)

宿泊料：1泊9000円ほど (30泊) + 宿泊税 (1泊約350円) ※素泊まり

設備：冷蔵庫、電気ケトル、金庫、アイロン・アイロン台、ペットボトルの水

#### (2) 気候・服装

- ・最高気温33°C前後、最低気温24°C前後。湿度高め。曇りが多い。35°Cを超える日は少なく、近年の神戸よりも過ごしやすかったです。
- ・通り雨・夕立が多いので、折り畳み傘は必須です。
- ・休日は半袖と風の通る長ズボンで過ごしていました<sup>3</sup>。

#### (3) 洗濯

週末に、ホテルから徒歩20分ほどのところにあるコインランドリーで1週間分の洗濯をしました。遠いうえに道が悪く、結構大変でした (後述)。

#### (4) 食事

- ・朝ごはんはスーパーで買ったものをホテルで食べました<sup>4</sup>。
- ・平日の昼食と夕食は、事務所から徒歩5分ほどの場所にあるAvenue Kというショッピングモールでとることが多かったです。フードコートを含め多くの飲食店が入っており、非常

---

<sup>3</sup> モスクに行く場合には半ズボンで入場できないので注意が必要です。もっとも、入口で肌を覆うための布を貸し出している場合が多いです。

<sup>4</sup> Avenue Kの地下にGrocer Villageというスーパーがあり、便利です。

に便利でした。飽きたときには、少し先にあるSuria KLCCのフードコート（ツインタワー内）を利用することもありました。事務所が入居するビルの1階にもローカルな飲食店がありますが、エアコンがなく暑そうだったため、私は利用しませんでした。昼食は中国から来たインターン生と一緒に食べるが多かったです。

- ・ 休日は外出先の飲食店で食べていました。

## (5) 移動手段

- ・ 空港（クアラルンプール国際空港）・都心間の移動は特急列車KLIA Ekspresが便利です。
- ・ クアラルンプール（KL）市内・郊外では、地下鉄（LRT、MRTなど）と徒歩で移動しました。基本的には地下鉄が便利ですが、なぜかKLCCエリアから有名な観光エリアBukit Bintangへの移動は不便です（私は20分ほどかけて歩きました）。
- ・ 週末には、長距離バスでマラッカ、特急列車でペナン島まで移動しました。

## (6) 決済手段

- ・ KL市内ではキャッシュレス決済が普及しており、現金を受け付けない飲食店もありました。もっとも、ローカルな青果市場などでは現金しか使えませんでした。
- ・ 私は、主としてクレジットカード（VISA）で支払い、現金は1万円ずつ崩して使っていました（余裕をもって10万円を持っていきましたが、結果的に3万円だけ両替しました）。
- ・ 両替所は空港やKL市内の観光スポット周辺にあります。レートはKL市内の方が良いです。私は、到着時に空港で少額（数千円）を両替し、それ以降はAvenue K内の両替所で両替しました。

## (7) 通信

- ・ 事務所内ではWi-Fiをお借りしました。
- ・ Kkday というウェブサイトですべて1日1GBまでのeSIMを日本で事前に購入しました。金額は約2200円でした。いわゆる格安SIMだと思いますが、特に不自由を感じることはありませんでした。

## 4 出発に向けた準備等について

### (1) 派遣決定まで

- ・ 学内メールで海外エクスターンシップ説明会の案内があります。説明会に参加した後、指

示に従って応募し、面接を受けました。自己紹介や経歴について英語で話した後、日本語での質問を受けました。

- ・神大の先生方による面接に加えて、最低限の英語の運用能力を備えているかを確認するためのJLPWによる面接があると伝えられましたが、JLPW側の都合により私は面接を受けませんでした<sup>5</sup>。

## (2) 派遣決定～渡航

### ① 手続面

- ・パスポートの取得が必要です。
- ・海外旅行保険への加入が必要です。大学指定のOSSMA Plus + 上乗せ海外旅行保険Cプランを購入しました。
- ・マレーシアの入国管理法上、インターンシッププログラムへの参加にはSocial Visit Passの取得が必要です。JLPWの職員の方と法科大学院教務グループに補助していただきました。渡航約1ヶ月前にJLPWの秘書の方からメールで案内があり、指示に従って顔写真やパスポートNo.等の情報を送る必要があります。

### ② 学習面

- ・説明会で紹介されていたLegal Englishの教科書をC先生から借りて目を通しました。法的な英語に慣れるという点で有益でした。
- ・リスニングは英語の映画やドラマを観るのがよいかもしれません。スピーキングは、ChatGPTとの会話がおすすめです。
- ・マレーシア法の勉強は全くすることなく渡航しました。

## 5 インターンシップに要した費用 ※1RM (マレーシア・リングgit) 35円で換算

### (1) 総額

485,485円

※今年度は大学から15万円の補助があったので、実質負担は335,485円

### (2) 内訳

- ・航空券+宿泊費 (ペナン島での1泊を含む) : 372,653円

---

<sup>5</sup> インターン中にパートナーの先生に聞いたところ、実施するのが通常ようです。先生が忙しすぎたために私は免除されました。

- ・食費 57,467円
- ・交通費 16,168円
- ・お土産 10,545円
- ・海外旅行保険料 16,420円
- ・その他（コインランドリー、衣類等） 12,232円

※滞在中に2度遠出したこと、ホテルの選択を誤ったこと等から費用がかなり嵩みました。

## 6 これからインターンに行く人達へのアドバイス等

### (1) 学習面での準備について

#### ① 英語

JLPWは、神大での面接に加えて事務所側での面接が実施されることから、少し選びづら  
いと感じるかもしれません。しかし、一定程度の英語の運用能力を備えていれば（TOEIC  
L&R700点以上が目安とされています）、心配は無用です。JLPWでインターンプログラムを  
統括されている先生によれば、面接はあくまで最低限の意思疎通ができることを確認するた  
めに行なわれるものであって、インターン中の業務遂行に必要な英語力を備えているかを確認  
するためのものではないそうです。私自身の経験からも、JLPWでのインターンプログラ  
ムの主たる趣旨は、海外の学生がクロスボーダー案件を含む企業法務の実務を見学・体験す  
る点にあると感じました。

他方、事務所内でのコミュニケーションはすべて英語で行われており、職員・弁護士の方  
々とは英語でやり取りをしなければなりません。滞在中に日本語を話す機会は一度もあ  
りませんでした。英語を母語とする人が多い国に長期間滞在し、日常的に英語を使用でき  
ることは、とても貴重な経験だったと思います。私は帰国子女としてある程度の英語運用能力  
を備えていましたが、それでもこのような環境で1か月を過ごすことで得られたものは非常に大  
きかったと感じています。

#### ② マレーシアの法制度

上記の通り、私はマレーシア法のことを全く知らずにインターンに臨みました。「渡航前  
にマレーシア法の基礎知識を身に付けておこう」と思っていたのですが、司法試験と前期期  
末試験後に己を律することができませんでした。それでも、インターン開始後に困ることは  
さほどありませんでした。パートナーの先生が初日にレクチャーをしてくれましたし、イン  
ターン開始後に適宜知識を得ることで対応しました。私は、初見の用語や法規制に遭遇す  
る度にChatGPTを利用して基本的知識を習得しました。もっとも、現地の法制度をあらかじめ

学んでおくことは決して無駄にはならず、その理解があってこそ得られる学びもあると考えます。各自の都合や目標に応じて準備を進めれば十分だと思います。

## (2) 事務所での姿勢

どこの国、法律事務所においても同じだと思いますが、弁護士の先生方は忙しく、インターン生のことを常に気に留めている余裕はありません。そのため、時には自らアソシエイトやピープルにタスクを割り当てて欲しいと伝える必要があります。もちろん節度を守ることが前提ですが、インターンから最大限の学びを得るためには、積極的な姿勢が欠かせないと感じました<sup>6</sup>。

## (3) 宿泊先

私はIbis Kuala Lumpur City Centreというホテルに宿泊したのですが、やや後悔しています。洗濯が不便だったからです。毎週末20分ほど離れたコインランドリーに通わなければならず、時間と体力を奪われました。そこで、airbnbで洗濯機・乾燥機備え付けの宿泊施設またはコインランドリーが近くにある宿泊施設を探すことをお勧めします。KLCCエリアでも見つかると思いますし、事務所から徒歩圏内でなくともLRT Kelana Jaya沿線であれば通勤もさほど大変ではないと思います<sup>7</sup>。宿泊先の選択において何を重視するのかは人によって異なると思いますが、いずれにせよ慎重に選ぶのが良いと思います。

## (4) 旅行のすすめ

休日に少し遠出をしてマレーシア観光をすることをお勧めします。マレーシアでは8月下旬から9月上旬にかけて祝日が複数あるので、時間はたっぷりあると思います。私は、滞在中にマラッカ（日帰り）とペナン島（1泊2日）<sup>8</sup>に行きました。いずれも世界文化遺産に登録されている街で、有名な観光地です。長期滞在でなければ中々足を運べない場所だと思うので、インターン期間中に行くことを強くお勧めします。

## 7 インターンシップの有用性等に関する評価及び感想

---

<sup>6</sup> 私自身この点はもう少し積極的に行動すべきであったと後悔しています。

<sup>7</sup> 中国からのインターン生は、Jelatek駅周辺の施設に滞在し、地下鉄で通勤していました。通勤ラッシュの中通勤する大変さはあるかもしれません。

<sup>8</sup> JLPWの方々もおっしゃっていましたが、ペナン島は食べ物が美味しいことで有名です。

## (1) 受入事務所の印象

JLPWの職員や弁護士の方々は非常に温かく迎えてくださり、インターン生が安心して業務に取り組める環境が整っていると感じました<sup>9</sup>。例えば、渡航前から秘書の方が綿密に連絡をとってくださり、必要書類の作成・提出を丁寧にサポートしていただきました。また、同じチームのアソシエイトやピューピルに加え、他部門の弁護士の方々からも積極的に声をかけていただき、分からないことがあっても質問や相談がしやすい雰囲気がありました。事務所外で交流の機会も設けられており、職員・弁護士間の仲が良いなと思いました。渡航前、初めて単身で長期間海外滞在することに大きな不安を感じていましたが、JLPWの皆さんの温かさに救われました。

## (2) インターンシップを終えて

私は当初、「渉外法務に携わりたい」「海外で働きたい」といった具体的な希望や、企業法務に対する強い関心があったわけではありません。正直に言うと、「海外に行ってみよう」という軽い動機で応募しました。しかし、JLPWでのインターンを通じて得られたものは非常に多かったと感じています。法科大学院では触れる機会の少ないIPOやM&Aにおけるリーガル・デューデリジェンスの実務を体験できたことは、自身の進路を考えるうえで大きな参考となりました。そして何よりも、慣れない環境に身を置いたことで自らの課題に気づくことができ、今後の自己研鑽につながる貴重な経験となりました。

マレーシアでの1か月間は、私にとって大きな財産になったと実感しています。最後に、この派遣に際してご支援・ご指導を賜った皆さまに心より御礼申し上げます。

---

<sup>9</sup> インターン生の受入れを積極的に行っている事務所なので、インターン生の処遇・取扱いが事務所内で共有されており、その点でも安心できました。もっとも、チームによって多少の差はあると思います。